

図書館だより

能勢高校図書館 2015.04

みなさんは新しい環境にもう慣れましたか？
あわただしかった4月も過ぎ去り、やっと一息つけるゴールデンウィークですね。
今回は最近話題になった本を紹介してみたいと思います。
連休中は心静かに読書はいかがですか。

壮大なファンタジーが待っている！

2015年本屋大賞受賞

上橋菜穂子作 『鹿の王』(上・下)



命をつなげ。愛しい人を守れ
もがき、そして戦え。
傷つきながらも生きていく人々の輝く生命の物語。

強大な帝国にのまれていく故郷を守るため、死を求め戦う戦士団。その頭であったヴァンは奴隷に落とされ、岩塩鉱に囚われていた。ある夜、ひと群れの不思議な犬たちが岩塩鉱を襲い、謎の病が発生する。その隙に逃げ出したヴァンは幼い少女を拾う。一方、移住民だけがかかると噂される病が広がる王幡領で

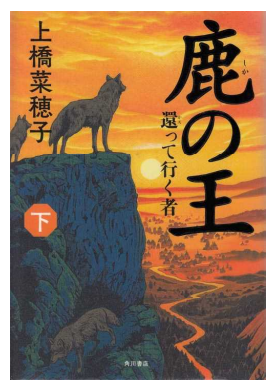
お知らせ

学校情報ネットワークの個人アカウントから能勢高図書館にある本の検索ができます。設定が必要ですので、検索をしてみたい人は、図書室・鎌田まで。

は医術師ホッサルが懸命に、その治療法を探していた。

ヴァンとホッサル。

病を見た男と、病を治そうとする医術師。二人の運命が交叉するとき、見たこともない世界が眼前に現れる。厳しい世界の中で、暖かく他者を支えながら生きる人々の、激しくも美しい物語が、いまはじまる。

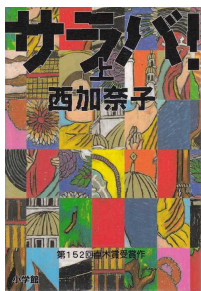
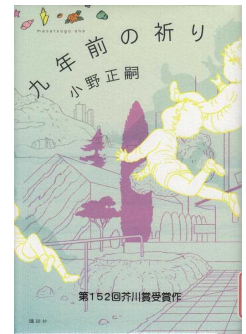


第152回 芥川賞受賞作

小野正嗣（著） 『九年前の祈り』

シングルマザーの（さなえ）は幼い息子の希敏（けびん）を連れて、この海辺の小さな集落に戻ってきた。希敏の父、カナダ人のフレデリックは希敏が一歳になる頃。美しい顔立ちだけを息子に残し、母子の前から姿を消してしまったのだ。何かのスイッチが入ると引きちぎられたミミズのようにのたうちまわり大騒ぎする息子を持って余しながら、さなえが懐かしく思い出したのは九年前の「みっちゃん姉」の言葉だった……

九年の時を経て重なり合う二人の女性の思い。
痛みと優しさに満ちた〈母と子〉の物語



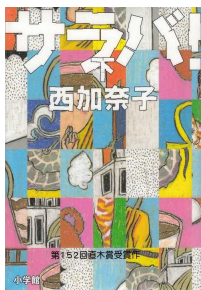
第152回 直木賞受賞作

西加奈子（著） 『サラバ』（上・下）

サラバ——

その力のとてつもなさに
彼はまだ、少しも気づいてはいなかった。

1977年5月、坏歩（あくつあゆむ）は イランで生まれた。父の海外赴任先だ。チャーミングな母、変わり者の姉も一緒だった。イラン革命のあと、しばらく大阪に住んだ彼は小学生になり、今度はエジプトへ向かう。彼の人生に大きな影響を与える、ある出来事が待ち受けていることも知らずに……



こちらはちょっと… いや、かなり古い(初版1966年)

『アルジャーノンに花束を』

米国の作家ダニエル・キイスによるSF小説で、現在、金曜ドラマとして放送されている「アルジャーノンに花束を」の原作です。これまでも、映画、テレビドラマ、舞台作品として取り上げられている不朽の名作！

32 歳になっても幼児なみの知能しかないチャーリー。そんな彼に夢のような話が舞い込んだ。大学の先生が頭をよくしてくれるというのだ。これにとびついた彼は、白ネズミのアルジャーノンと競争相手に検査を受ける。やがて手術によりチャーリーの知能は向上してゆく…… 天才に変貌した青年が愛や憎しみ、喜びや孤独を通して知る人の心の真実とは？

